令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜山中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	今年度は指導と評価の一体化を研修の中心に据えて生徒たちの学習意欲の向上を図るように努力した。その中で、生徒たちがテストに向けて、効率よく学習する姿勢を見え、校内での学習意欲を向上させることができた。全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかしながら、家庭での学習に関しては未だ課題がある。依然として低い数値であることが市のアンケートからも読み取ることができる。しかし、個人的に大きく支援が必要な生徒も多く、特別支援の研修を行い、個別最適化とユニバーサルの視点を踏まえた授業改善に取り組みたい。
思考・判断・表現	今年度はICTの活用が進み、生徒が情報を集めやすくなり、自分の考えを表現する際もそれぞれの集めた情報を基に自分の考えを表現できる生徒が増えた。しかし、発表の機会を十分に設定することができなかった。来年度は、すべての教育活動を通してより発表や体験活動を取り入れた授業改善に取り組みたい。

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	＜学習上の課題＞知識の活用に課題が見られる。＜指導上の課題＞知識の選択の場面設定に課題があると考えられる。	⇒	・各教科小テスト等の実施 ・校内研修で教職員の指導と評価の一体化の推進 ・評価活動の充実
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞考えをまとめたり表現することに課題が見られる。＜指導上の課題＞授業ではそうした場面が設定されているので、今後の変容に期待したい。	⇒	・発表を取り入れた授業の推進 ・タブレット端末活用で自他の意見を発信・共有する「学び合い」を全教科で実施 ・授業の「フィードバック」の実施(振り返りや相互評価等)

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	「指導と評価の一体化」の取り組みの一環として3つの取り組みを行った。中でもテスト前にテスト対策の授業をすべての教科で行うことでテスト時に学習の目標が明確になり、R6年度さいたま市学習状況調査の質問事項「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」では、市の肯定的な解答の数値を上回った。自主的に学習に取り組めたことにより、市学習状況調査では、すべての教科で市平均との比較から向上が見られた。
思考・判断・表現	A	効率的にICTを活用して、生徒に話し合い活動や、発表を行うことができている先生の授業を校内研修で共有した。その結果、R6年度さいたま市学習状況調査(「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が市の平均よりもすべての学年において上回っている。)このような授業改善を通して、生徒が自主的に学習に取り組めたことにより、市学習状況調査では、すべての教科で市平均との比較から向上が見られる。

※評価　A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の使い方や使い方に関する事項」において、特に「表現の技法について理解しているかどうかみる」問題に課題がみられた。表現の技法について理解しているかという出題の最初の問題で全国平均と20%以上の差があった。 数学の「数と式」の領域において課題が見られた。等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみるという出題の最後の問題で全国平均と15%以上の差があった。自分の知識を目的に応じて変形させるという点に課題がある。
思考・判断・表現	国語では、自分の考えを伝える問題や、内容を要約する問題で、全国平均と10%～15%の差が見られた。数学では数学的な表現を用いて説明する問題と筋道を立てて証明する問題で全国平均と15%の差が見られた。自分の考えを伝えることが苦手という点において本校の家庭環境の状況を考えるとこの点の弱さは非常に分かりやすい結果が出ていると思う。

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	数学においては知識技能の数値の方が思考判断表現よりも高いのに反して、国語においてはその逆の結果になっている。このことから本校では言語的な知識技能が劣っていることが読み取れる。生徒を取り巻く環境にかかわらず、学校でのコミュニケーションを通じて、言語的な知識の向上に努めたい。
思考・判断・表現	国語の自分の考えを記述する問題で市の正答率と比較するとそのさらに半分程度の正答率であった。考えを述べる内容の問題では同じような傾向がその他の教科でも見ることができる。教科、領域における授業で、話し合いを通じて考えを深めたり、発表を通じて思考力をさらに身につけさせたい。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	年度当初、学習の取り組みで小テストをコンスタントに実施する計画を立て、教科によっては積極的に取り組む姿勢を引き出せるものもあったが達成したと言えない教科もあった。6月に調査を控えも、評価に関しての研修を実施し、指導訪問において各教科で実践の改善策を話し合った。	・各教科小テスト等の実施方法の共有、改善 ・校内研修で教職員の指導と評価の一体化の共有、改善 ・評価活動の研修と見直し
思考・判断・表現	B	全国学力では、知識を適用する等表現力において課題が見られた。各学年とも組織的な学習や特別活動においてそれぞれの発表場面を設け、教科でも知識を適用して発表する取り組みを実施しているので、それらの効果を期待したい。夏休みの研修において、タブレット端末の活用や効率の良い授業の「フィードバック」方法に関して研修で共有した。	・発表を取り入れた授業の共有、改善、見直し ・タブレット端末活用方法の上手な先生による校内研修を実施した。 ・授業の「フィードバック」方法の共有

※評価　A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜山中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 知識・技能の活用に課題が見られる。 ＜指導上の課題＞ 知識・技能の選択の場面設定に課題があると考えられる。	⇒	・定期テストでの対策授業を実施する ・成果が分かりやすいリテストを実施する ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 考えをまとめたり表現することに課題が見られる。 ＜指導上の課題＞ 授業ではそうした場面が設定されているので、今後の変容に期待したい。	⇒	・発表を全体にお開する機会を増やす。 ・全教科で生徒の学習意欲が向上する工夫を、その教科領域の特性を生かして考える。 ・「学びのポイント」(ジ・シ・ャ・ク)に基づいた授業づくりを推進する。 ・SSSPを推進させ、自分の力で学習を動かせられるようにする。 ・ICTを活用し、自分の考えを発表する場面を意図的に作る。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価　A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価　A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)